

グラフィックサービス

発行：一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

G
JaGra



● 巻頭企画

page2021 Online 見てある記

「リセット・ザ・フューチャー」をテーマに新たな未来を提案！

● 特別企画

2011.3.11 東日本大震災から

これまでの10年を振り返る

岩手・宮城・福島県支部 復興への道程

● 連載

印刷産業における取引環境実態調査⑦

● NEWSとお知らせ

JaGra 認定

DTPオペレーション技能テスト実施報告

G
S
No.832
2021
03

電子版無料公開中!

スマホでも本誌が読めます
公式HPで本誌PDF版を公開中。
紙媒体より1週間早い毎月中旬に
ご覧いただけます。バックナン
バー閲覧もこちら!



<https://www.jagra.or.jp/>

なかむら通信

読者の皆様へ



ジャグリストの皆さん、こんにちは。
会長の中村耀です。

2月13日深夜、福島県沖を震源とした地震は全国的に広範囲に揺れが伝わり、宮城・福島の会員企業に被害がありました。東日本大震災の余震とのことですが、コロナ禍の状況下に加えての地震被害、大変だと思いますが頑張ってください。また、この3月で大震災から10年を迎えますが、全国の皆さんにおかれては、災害対応など今一度、確認方をお願いします。

3月は年度末ということもあって、我が社も2月中旬頃から仕事が増えてきました。しかし、徐々に仕事が増えるのは良いことですが、急に仕事が増えると事故や間違いも心配です。こちらについても、3月から4月初め頃迄は充分注意をして毎日を通り過ぎていきましよう。

CONTENTS

●巻頭言

1 ジャグラと私と事業承継

—— ジャグラ監事/鈴置印刷(株) (愛知) 鈴置 誠

●巻頭企画

2 page2021 Online 見てある記 「リセット・ザ・フューチャー」をテーマに新たな未来を提案!

—— (株)バリューマシーンインターナショナル 宮本 泰夫

●特別企画

23 2011.3.11 東日本大震災から これまでの10年を振り返る

岩手・宮城・福島県支部 復興への道程

—— 岩手/トーバン印刷(株) 菅原 正行
宮城/(有)大橋印刷商会 大橋 邦弘
福島/キング印刷(株) 伊東 邦彦

●連載

14 印刷産業における取引環境実態調査⑦

印刷産業の持続可能な発展に向けた検討会の概要

—— 経済産業省の調査報告書より

●NEWSとお知らせ

10 JaGra認定 DTPオペレーション技能テスト実施報告

—— 第1期試験を123名が受験、非会員受験も3割を超える

18 理事会・委員会通信

—— 生産性向上・経営技術研究・マーケティング委員会議事録より

20 業界の動き

2.13 第2回全国キャラバンを開催 (SPACE-21)

2.19 東北地協幹事会を開催

2.15 じゃばにうむ 2021 を開催 (日印産連)

—— 広島のニシキプリント・宮崎社長が事例発表

29 ジャグラBB HOTNEWS

27 会員の異動 (新入会)

28 事務局日誌とスケジュール

月刊

グラフィックサービス

発行 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

ジャグラと私と事業承継

巻頭言

ジャグラ監事/鈴置印刷(株) (愛知) 鈴置 誠



昨年6月の総会で本部監事を拝命しました愛知県支部・鈴置印刷(株)の鈴置誠と申します。支部でも今期より監事を務めております。

ジャグラには随分長いこと在籍しておりますし、過去に副支部長もやらせていただきましたので、支部の活動についてはそれなりに理解しておりましたが、本部の活動については、総会・各種コンテスト・年賀状サンプル等々、今までは一会員として関わり、機関誌から情報を得るだけに留まっておりました。お恥ずかしい話、ジャグラ本部にも行ったことがなく、昨年、監事になったので楽しみしておりましたが、コロナ禍の影響で未だに何うことができておりません。ですが理事会にはリモートで出席しており、少しずつではありますが本部の活動もわかってきました。4月には監査会議があり、出席する予定ですので楽しみにしております。

今回、巻頭言の原稿依頼をいただき、何を書こうか過去の巻頭言を再読しましたが、皆様のように立派なことは書けませんので、当社(私)とジャグラ愛知、そして事業承継についてお話ししたいと思います。

私は、父(社長)が病気がちでしたので、よそ飯を喰わず、大学卒業と同時に自社へ就職しました。当社は1958年(昭和33)創業で、ジャグラの前身である全日本謄写印刷業連盟へは、50年くらい前、当支部会員であるブラザー印刷・岡田康孝様に誘っていただき、入会したと聞いております。私自身の業界との関わりは、愛知の青年部・愛青会の設立をきっかけに参加したのが始まりです。当時24歳、最年少でした。愛青会では、会員各社の見学会を通して、会社が何処にあって、どんな設備をどのように使って、得意なものは何かを知ることができ、知識も経験も無い若い私には、たいへん勉強になりました。愛知だけでなく、ジャグラは全国で、お互いの会社を見学しあい、会員相互に学びあい、刺激を与えあいながら発展しようとしています。これは良い伝統だと思います。

さて、今から15年くらい前、10歳年上の愛青会設立からの先輩に、「鈴置、今の俺の悩みは10年後のお前の悩みになるぞ!」と言われました。印刷業界だけでなく日本中の中小零細企業の社長の悩みのひとつは「事業承継」です。「社長の最後の仕事は、後継者を決めて無事引き継ぐこと」とも言われました。

8年くらい前、私も同族内での引き継ぎを考えましたが、結果、断念しました。その時、父が独立する前に勤めており、同じ刈谷市で創業者から三代にわたり、ジャグラ愛知でもたいへんお世話になっているクイックスさんに相談に伺いました。当社の経営状況、財務内容などをご検討いただき、5年ほど前から準備を始め、昨年9月、ジャグラ副会長でもある岡本泰さんに社長を交代しました。若いときには、愛青会で同年代と切磋琢磨して勉強し、ジャグラ愛知では先輩の貴重なアドバイスと今回のご縁をいただきました。私は、「ジャグラに入っていなかったら、今、うちの会社はなかった」と心底思っておりますので、これからはいたいへん微力ですが、少しでも恩返しが出来ればと思っています。

コロナの影響で、昨年の高知大会に続き、今年の大阪大会も中止となり、たいへん残念です。来年の愛知大会の準備は、今年4月に神山運営委員長・岡本実行委員長を中心に実行委員会が立ち上がる予定です。3年ぶりの全国大会となりますので、3年分楽しんでいただけるようしっかり企画して、皆さまをおもてなしいたします。ぜひ来年のご予定に入れていただき、たくさんの方にご参加いただきますようお願い申し上げます。東海地協全員でお待ちしております。



ヴィジュアル=同展トップバナーより

page2021 Online 見てある記

「リセット・ザ・フューチャー」をテーマに新たな未来を提案！

(株)バリューマシーンインターナショナル 取締役副社長 宮本 泰夫

国内・印刷業界初のオンライン展

2月3～5日の日程で開催予定であった公益社団法人日本印刷技術協会（以下 JAGAT）主催の印刷展「page2021」は、コロナ禍の影響によりリアル展示会を中止して、オンラインイベント「page2021 Online（以下 page2021）」として、2月8～28日の日程で Web 開催された。今回のテーマは「リセット・ザ・フューチャー」である。

近年の印刷市場は、オンラインメディアの利用拡大により、ペーパーメディアの市場規模は大幅な減少を続けている。また、IoT、AI などのデジタル技術が実用化ステージを迎え、製造プロセスにおいてもスマートファクトリーと呼ばれる新たなステージへの移行が見えてきた。そういった環境変化の中で、印刷業はそのビジネスや製造プロセスにおける転換点を迎えている。さらに昨年来からのコロナ禍の影響は、印刷市場にも甚大な影響を及ぼしている。アナリストの分析によれば、印刷物の減少により平均で約 35% の売上減少を招き、業務面においても対面での営業活動やコミュニケーションが制限され、リモートワークへの移行による業態変革を進めなくてはならない環境に置かれている。

page2021 のテーマ「リセット・ザ・フューチャー」の“リセット”とは、こうした急激な環境変化に対応するためには、「一旦全てをリセットするくらいに覚悟を持った取り組みが必要となる」というメッセージが込められており、“フューチャー”と表現される新たな未来を創造していく契機になる展示会にしたいという意思が示されている。

昨年来からのコロナ禍の影響により、各種イベント・展示会の延期や開催中止が相次いでいる。こうした流れは印刷業界も同様で、世界最大の印刷展・独 drupa は一旦延期とされた後、本年 4 月に virtual.drupa としてオンライン開催が決定している。国内では JP2020 が昨年 11 月に延期し、規模を縮小して開催された。メーカーや機材商社のプライベートショーも、実施の際には完全招待制にするなど、来場人数を制限する対応が取られてきた。印刷業界が装置産業であることもあるが、多くの主催者は、可能であれば実機を見せるリアル展の可能性を模索している様子である。

page2021 は、元々、リアルとオンラインのハイブリッド開催が予定されていたが、開催直前に緊急事態宣言が発出されたこともあり、国内印刷業界では初めてのフルオンライン展となった。2月8～28日まで 21 日間にわたり、基調講演、カンファレンス、ミニセミナーなどは全てオンラインで実施、出展各社が展示会サイトに個別ページを開くことで、24 時間閲覧可能なオンライン展となった。



オンライン開催となった JAGAT 主催の印刷展 page2021 Online の Web サイト

出展社数は本稿執筆時点で 40 社程で、去年の page2020 リアル展 161 社に比べ大幅減少したが、常時閲覧できることや、多くの動画により詳細説明を行うなど、オンラインならではの良さを感じることができた。もちろんリアル展と比較すれば、コミュニケーション面での不満はあるが、オンライン上での名刺交換機能を備えていたことや、出展メーカーによっては、来場者（閲覧者）からの問い合わせをチャットで受ける機能なども利用していた。

オンライン展であっても、出展社、来場者それぞれに明確な目的を持つことができれば、実機に直接触れられないことを除けば、展示会としての役割を十分果たせることを示せたのではなかろうか。同会の速報値によると、ユニーク来場者数は 1 万 52 名であったとのことである。

枚葉デジタル印刷システムは高速化とノンストップ印刷への挑戦

●各社フラッグシップモデルの競演

枚葉デジタル印刷システムでは、各社から最新のフラッグシップモデルが出展された。品質面ではすでにオフセット印刷同等を実現し、印刷可能な用紙も幅広く対応する機種において、各社ともにさらなる高速化とノンストップ印刷への挑戦がキーワードになっている。大容量・複数の給排紙ユニットや大容量インクタンクを搭載することで、連続する小ロットジョブの印刷においても印刷機を止めることなく処理することが



コニカミノルタ AccurioPress C14000 はヘビープロダクション機



コニカミノルタ AccurioJet KM-1 は対応用紙や加工接続機能を拡充



HP Indigo 100K は B2 枚葉デジタル印刷機での最高速機



京セラの TASKalfa Pro 15000c Type-L



安定出力を受け継ぐ キヤノン ImagePRESS C10010VP



ローランド ディー・ジー. の LED-UV プリンタ VersaUV シリーズ 2 機種



リコー RICOH Pro C7210 は 5 色印刷により多様な表現に対応



SCREEN の本紙校正インクジェット ProofJet シリーズ 2 機種

page2021 Online 見てある記

可能となっているほか、安定稼働・効率化を実現する機能を備えるモデルが増加している。

コニカミノルタはプロダクションプレスのフラッグシップモデルである AccurioPress C14000 および B2 枚葉インクジェットプレス AccurioJet KM-1e を出展し、動画で詳細機能を紹介した。同社は C14000 をヘビープロダクションプレスと呼び、従来モデルとは一線を画した高速・大量生産モデルとして位置付けている。また KM-1e は従来モデルからのバージョンアップにより対応用紙の拡大、加工機とのインライン接続機能の拡充などが可能となっている。

キヤノンも最新機として ImagePRESS C10010VP を紹介、従来機の持つ安定出力を受け継ぐとともに、センシングシステムなどの機能追加が行われた（後節で詳説）。HP は 2020 年の drupa をターゲットとして 10 機種以上の最新デジタルプレスを発表しているが、本展では最新の第 5 世代エンジンを搭載し、毎時最大 6000 シートという B2 枚葉デジタル印刷機では最高出力速度を誇る HP Indigo 100K を紹介した。またインクジェット枚葉高速機では、京セラドキュメントソリューションズが TASKalfa Pro 15000c Type-L を紹介、大容量インクタンクを搭載することでロングラン印刷に対応する。

大判インクジェット分野では、ローランド ディー・ジー. が LED-UV プリンタ VersaUV シリーズ 2 機種を、SCREEN は本紙校正インクジェット ProofJet シリーズ 2 機種を紹介した。

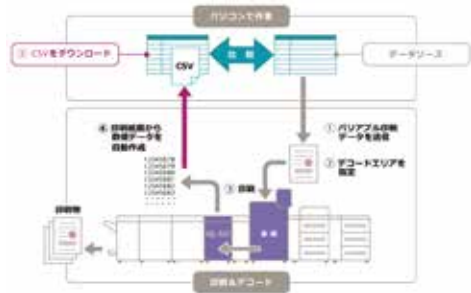
●安定稼働・効率化と高付加価値化の周辺機能

前節で触れたノンストップ印刷に必要な不可欠な機能として安定稼働が挙げられる。長時間の連続稼働を実現するには、稼働状況のモニタリングとチェック、自動調整システムが必要であり、さらに画像欠陥の検査機能も求められる。今回出展された各メーカーの最新モデルには、印刷中の色変動、印字位置検出と自動補正機能、印刷面の画像検査機能などがオプション搭載されており、高速化の追求だけでなく、安定稼働・効率化が図られている。

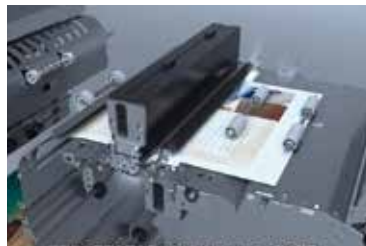
コニカミノルタの自動検査・調整システムであるIQ-501は、バーコードやシリアルナンバーなどの可変要素印刷について、印刷後にその整合性を検査する機能を搭載した。またキヤノンはImagePressにセンシング・インスペクションシステムをオプション搭載し、印刷中の色変動などを最小限に抑えることを可能とした。HP Indigo 15Kに搭載される画像欠陥検査装置は、各種項目について自動調整を行うとともに、自己学習機能を搭載して、利用しながらその機能を高めていくことができる。

また、高付加価値化技術として、特殊・特色トナーの利用も注目されている。5～7色の多色印刷機構を搭載するデジタル印刷システムでは、白、透明、蛍光カラー、メタリックカラーなど様々な特色トナーの対応が進んでおり、1台の印刷機で様々な質感や特殊効果をもつ印刷物を作成することが可能となっている。

リコーは、5色印刷機構を備えたRICOH Pro C7210



コニカミノルタのIQ-501は可変要素検査機能を新搭載



キヤノンが初めて搭載したセンシング・インスペクションシステム



HP Indigo 15Kの欠陥検査装置は自己学習機能を備える



リコーはRICOH Pro C7210にメタリックトナーを新たにサポート



HP Indigoの7色印刷機構では様々な特殊・特色トナーをサポート



QuickArtは白トナーをアイロンプリントで転写利用するシステムを紹介

で利用可能な特色にゴールド、シルバーのメタリック色を追加した。これにより同社は白、透明、蛍光カラーに加えメタリックまでの幅広い質感の再現に対応する。また最大7色の印刷までが可能なHP Indigo 15Kでは白、透明、蛍光、高彩度トナーからコーポレートカラーなどの特色まで様々なカラー搭載することができる。さらに、白トナーをアイロンプリントでガーメント（衣類）向けに転写するシステムをQuickArtが紹介した。

ワークフローと周辺システムは自動化・効率化・オンライン化が進む

●プリプレスワークフローはオンライン機能を強化

プリプレスワークフローシステムもここ数年で大きな変貌を遂げてきた。AGFA およびコダックはシステムをクラウド化することで、遠隔地からのリモート運用を可能とするばかりでなく、複数拠点において、同一で常に最新のソフトウェアを利用できる。

一方、昨今のコロナ禍の影響で、オンラインやリモート化のニーズが大幅に高まったことから、各社ともウェブフローやオンライン校正、モバイルワークへの対応機能が次々と実装されている。特徴的な点は、オンライン化と合わせてユーザビリティの向上が着目されていることである。担当者が対面でマーキングや確認するといった従来の作業を、オンラインでも同様のスタイルで実現できるよう機能設計が図られている。

AGFAのApogee12では、オンライン上での機能が強化され、WebFlow（フロー構成）、WebApproval（オンライン承認）、Impose（面付）の各モジュールが最新版となっている。SCREENのEQUIOS Onlineは、プリフライト機能を自動化し、オンライン校正機能にはマーカ機能などユーザビリティの強化を図っている。富士フイルム xmfはオンライン校正機能とモバイルワーク機能を強化した。また、コダック Prinergyはクラウド化とともに、BCPを目的とした災害用バックアップ機能が搭載された。

●オンライン校正 / 自動化ツール

統合システムとなっているプリプレスワークフローシステム以外に、オンライン校正やMIS（経営情報システム）など単独のツールも数多く出展された。すでに解説してきたように、コロナ禍の影響は日常業務のあり方を見直す一つの契機となっており、対面からリモートへ、人的作業から自動化ツール利用など、環境に合わせた対応が急務となっているためである。印刷ビジネスは非常に多くのプロセスから構成されてお



オンライン上の機能が強化されたAGFA Apogee12



SCREENは自動プリフライトと校正機能を強化したEQUIOS Onlineを出展



富士フイルム xmf はオンライン校正に加えモバイルワーク機能を強化



コダック Prinergy は災害用バックアップ機能でBCPを支援



目的別の各種校正ツールを紹介した .Too



タクトピクセルのAIを利用した各種ツール作成支援システム



enfocusとソフトウェア・トゥーはSWITCHを紹介



両毛システムのクラウド型MIS PrinTact



木野瀬印刷のクラウド型MISシステムMIクラウド



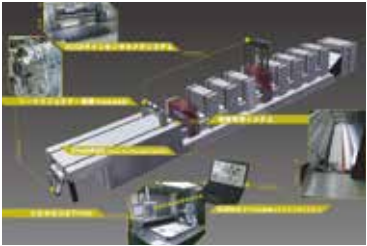
シーズは印刷通販サイトをパッケージとして提供



NEC ネクサソリューションズのSUPER DIGITORIAL/EW



検査装置の高速化
オンライン化を進める GTB



ダックエンジニアリングの
各種検査装置



マンローランドゴスウェブシステムの
濃度検査・コントロールシステム



Heidelberg Prinect
プロダクションマネージャーアシスタント



RMGTの印刷機向け品質管理システム



富士フイルム
完全無処理プレート Superia ZP/ZD-2



コダック
完全無処理プレート Sonora XP



AGFAはUV対応現像レスプレート
完全無処理プレートを今夏発売開始



モリスワのMC Catalog+は
多言語マルチ情報発信ツール



サムライズはInDesign サーバの
効率利用を紹介



グローバルグラフィックスの
電子ドキュメント作成 SDK



イワタの新フォントは
新たな世界観を表現する



タイププロジェクトでは
フォントの字幅やコントラストで表現



コニカミノルタのプリントバル



グランドコジャパンは
各種小型加工ツールを出展



トッパン・フォームズのSmartPad



アオヤギの文書管理サービス



土山印刷の展示会ソリューション



ラクスルのオンラインデザインツール



グラフィックのSmartCheck



プリントパックの抗菌印刷商材



佐川印刷のコロナ対策としての
プリント布マスク



新星コーポレーションが紹介した
抗菌・抗ウイルス水性ニス



小松総合印刷の
非接触型抽選システム

●検査装置・各種管理システム

自動化・効率化を進めるうえで重要となる要素に品質検査がある。複雑なプロセスを利用する印刷ビジネスにおいては、その利用形態にも様々な形が要求されるため、各メーカーよりニーズに合わせた製品が提供されている。また、リモート運用やスマート運用と呼ばれるオンライン型の運用形態、物理的な確認をモニタ上で行う仕組み、タブレット端末での操作を可能とする機能など、ユーザビリティの向上なども図られている。

GTBは検査装置の高速化・オンライン化を進めるとともに、刷版検査などの管理機能を充実させた各種システムを出展した。ダックエンジニアリングは、印刷・加工ラインの各工程に搭載する各種検査装置・モジュールを出展し、マンローランドゴスウェブシステムは、印刷機に搭載する濃度検査・コントロールシステムを出展した。

HeidelbergのPrinectプロダクションマネージャーアシスタントは様々なプロダクションの管理機能を提供するが、サブスクリプション課金方式に対応した。また、リョービMHIグラフィックテクノロジーは、印刷機向けの品質管理システムであるスマートアシストプリンティングを紹介した。

●刷版は無処理・現像レスプレートへ

オフセット印刷における刷版処理においては、近年無処理化の流れが加速している。現像プロセスを削減することは、処理の効率化に寄与するだけでなく、廃液・排水の削減などの環境対応の効果やコスト削減効果もあり、印刷会社から注目が高まっている。そのため刷版プレートメーカーでは、各社の技術向上や新製品投入などが積極的に行われてきた。

富士フイルムは完全無処理プレート Superia ZP/ZD-2を紹介し、コダックも同様に完全無処理プレート Sonora XPを紹介した。AGFAはこれまで現像レス

プレートを主力としてきたが、新たにUV対応現像レスプレート ADAMS、さらには同社初の完全無処理プレート ECLIPSEの2種の新プレートを発表し、今夏に発売開始する。

●印刷サービスの価値を高める多様なユーティリティ・サービス

●マーケティングツールから小型加工システムまで

印刷サービスの高付加価値化には様々な切り口や取り組みがある。高品質な印刷物を支える技術にはデザイン、フォント、組版、制作などの要素技術があり、また印刷原稿からオンラインメディアへの転換を行うことで、多様なチャネルへのマルチ情報発信なども可能となる。近年では、顧客へのマーケティングサポートを、ダイレクトメールなどのペーパーメディアを活用して支援するビジネスを展開する印刷業や、マーケティングオートメーションシステムを運用する企業も増加しており、様々なメーカーからソリューションが紹介された。

モリスワはフォントと文字組版の応用技術を利用した多言語化によるマルチ情報発信ツール MC Catalog+を出展、サムライズはInDesignサーバの効率利用と多言語対応のカタログシステムを紹介、グローバルグラフィックスでは電子ドキュメント作成用 SDK であるMAKOを紹介した。

フォント分野では、イワタが新たな世界観を表現する新フォントを、タイププロジェクトは字幅やコントラストを変えることによる様々な表現について紹介している。

さらに、マーケティングツールではコニカミノルタが顧客コミュニケーションマーケティング総合支援システムであるプリントバルを発表、グランドコジャパンは小型加工システムを、トッパン・フォームズはリモート型重量計測システム SmartPadを出展した。

●顧客向け各種ユーティリティサービス等

顧客のユーザビリティの向上を目的としたツールや、印刷業のビジネスやサービスを伝え、より便利に利用していただくための製品も数多く紹介された。特に新型コロナウイルスに対する様々な取り組みは、オンライン展示会内に特設ゾーンが設けられ、抗菌・抗

ウイルスに対応した材料や、一般消費者向けのマスクなどの製品が積極的に紹介された。

アオヤギは文書管理サービスとして、スキャニングによるデジタル化とドキュメントサイクルマネジメントを組み合わせたサービスとして紹介し、土山印刷はオンライン展示会ソリューションを紹介した。印刷通販では、ラクスルが特別なツールを保有せずデザインを可能とするオンラインデザインツールを、グラフィックは印刷物の仕上がりがイメージをオンライン上で確認できる SmartCheck を紹介した。

また、特設ゾーンとして「コロナ対策ゾーン」が設けられ、感染防止素材としてプリントパックは抗菌印刷を、佐川印刷はプリント布マスク、新星コーポレーションは抗菌・抗ウイルス水性ニス、藤本コーポレーションは抗菌マスクポーチをそれぞれ紹介した。さらに、小松総合印刷からは非接触型の抽選システムであるデジくじが、研文社からは印刷会社の社会貢献の一環としてすこやかノートの市場展開が紹介された。

おわりに

フルオンライン展となった page2021 Online では、実機に触れることはできなかったものの、「リセット・ザ・フューチャー」のメインテーマに沿った様々なソリューション・サービスが紹介された。急激な外部環境の変化の中にある印刷市場においては、製造業としてのあり方、業務運用の形態など、将来に向けて生き残っていくため、従来の取り組みから大きくその変化が求められていることを改めて気付かされる展示会であった。

最近、DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が印刷市場でも聞かれるようになった。DX

とは広義の定義としてデジタル技術を利用して進められる効率化を表しているものであるが、page2021 がオンラインでも一定の成果を上げられたことも一つのDXの形ではないだろうか。地方からでも移動することなく展示会に参加することができ、また各出展ページに掲載された数多くの動画から製品の詳細を見ることができるなど、デジタル技術を利用することによるメリットは大きいと感じた。

一方、印刷ビジネスにおけるDXはどのように考えれば良いであろうか？ ここではその詳細を説明するスペースはないが、「デジタル技術の活用により、コミュニケーションの質と伝達スピードを最大化することで、最大の効果と効率化を獲得する」という考え方を提案したい。ここで表現するコミュニケーションには、営業と現場、営業と顧客、製造現場でのシステム・プロセス間、顧客とその先の顧客との間など様々な関係が含まれると考えていただきたい。

製造現場でのシステム・プロセス間の伝達スピードを高めることはスマートファクトリーと呼ばれる自動化製造プロセスにつながり、モバイルワークなどを通じて営業と顧客の間の伝達スピードが高まれば、印刷業のビジネスそのものの価値を高めることにつながるものと見ることができる。さらには、顧客とその先の顧客との情報伝達のスピードを印刷ビジネスとして、またペーパーメディアを利用することで高めていければ、印刷物そのものの価値を高めることにつながるものである。

page2021 Online で紹介された様々なソリューションが様々な切り口でのDXを実現する契機となり、将来に向けた印刷ビジネスのり・エンジニアリングにつながることを期待したい。



■筆者プロフィール 宮本泰夫（みやもとやすお）(株)バリューマシーンインターナショナル取締役副社長。1993年より東洋インキにてデジタル印刷機の技術、アプリケーション開発に携わる。2003年にバリューマシーンを設立し現職。独立系コンサルタントとして、デジタル印刷を中心とした、基礎技術から、デジタルワークフローやWeb-to-Printなどビジネス技術面でのコンサルティング、企画・セールス・マーケティング面でのビジネス開発コンサルティングを多数手掛ける。クロスメディアソリューション研究会運営理事、全日本印刷工業組合連合会 印刷営業講座専任講師、日本印刷技術協会（JAGAT）客員研究員、日本グラフィックサービス懇話会顧問、フォーム印刷研究会講師、情報工学修士。

あなたの会社を守る ジャグラ・グループ保険

- 特長1 掛金が割安です（例：30歳男性、1口277円/月）
- 特長2 死亡時保障額は最高1600万円
- 特長3 事故による入院もワイドに保障
- 特長4 医師の診査はありません 告知のみでお申し込みいただけます
- 特長5 掛金のお支払方法も簡単です

お問い合わせはジャグラ事務局・酒井まで **Tel.03-3667-2271**

FUJIFILM
Value from Innovation

完全無処理300%増。

富士フイルムの完全無処理CTPをテストした95%*が切り替えを決定し、続々と導入が進んでいます。

しかし、さまざまな理由で導入に至らなかったお客さまが5%いらっしゃることも、また事実。富士フイルムでは、この課題を真摯に受け止め、さらなるサポート体制の強化に取り組んでいます。

※当社比較および調べ



完全無処理の時代は、富士フイルムがつくる。

SUPERIA 完全無処理CTPプレート

■完全無処理プレートを導入されたお客さまの声をご紹介しています。

FFGS 無処理



富士フイルム グローバル グラフィック システムズ株式会社

JaGra 認定 DTPオペレーション技能テスト実施報告

第 1 期試験を 123 名が受験、非会員受験も 3 割を超える
スコア表・認定証書は 3 月中に送付いたします

JCST JaGra Certified Skill Test

ジャグラコンテスト委員会（委員長：笹岡誠理事、担当理事：谷川聡副会長）は、DTP オペレーターの技能向上を目的とした新試験制度「JaGra 認定 DTP オペレーション技能テスト（略称 JCST：JaGra Certified Skill Test）」を実施しましたので、その概要をご報告いたします。

×

JCST 実施の目的

JCST は、課題をもとに制作された DTP データをスコア（点数）評価し、「印刷物制作現場で即戦力として活躍できる DTP オペレーション技能を有する人物を認定する」とともに、「自身のオペレーション技能を客観評価することで、今後強化すべきポイントを把握する」ことを目的としたテストです。課題データはインターネット経由で提出し、審査員による評価をスコア表でお返しします。

JCST 第 1 期実施概要

◎募集期間

2020 年 10 月 22 日（木）～ 11 月 30 日（月）

◎応募方法

特設サイトからの応募

◎受験対象者

おおむね業務歴 2 年以上の方

◎参加費（税込）

ジャグラ会員 8000 円／会員外 1 万円

◎テスト内容

- ① Adobe InDesign とそれに付随する印刷物制作に関する技能テストを実施
- ② 制作課題を 4 問出題
- ③ Adobe InDesign およびリンクファイル、その他課題要

項の指示に従い、必要ファイル一式を提出

④ 課題出題より約 1 か月後にインターネット経由で課題を提出、約 2 か月後にスコア表を返却

⑤ 第 1 期は Adobe InDesign の試験のみ実施

応募者属性

ジャグラコンテスト委員会は第 1 期の応募目標を 100 名としていましたが、合計 123 名の方に応募いただき、目標を達成することができました。応募者の属性は下記の通りでした。

◎会員・非会員比率

約 30%が非会員からの応募でした。

ジャグラ会員	84 名	68%
非会員	39 名	32%

◎企業受験・個人受験比率

企業受験が大半を占めました。

企業受験	107 名	87%
個人受験	16 名	23%

◎エリア別応募者比率

関東エリアの比率がもっとも高いですが、全国から応募がありました。

関東	46 名	37%
北海道・東北	21 名	17%
東海	13 名	10.5%
近畿	12 名	9.5%
北陸	10 名	8%
中国	9 名	7%
四国	7 名	7%
九州	5 名	4%

JCST 第 1 期課題内容

- ① 課題は、制作用データの特設サイトからダウンロードし、完成データを期日までに所定の場所にアップロードするかたちで提出を受け付けました。
- ② 制作期間は 2020 年 12 月 8 日から 2021 年 1 月 19 日までの約 1 か月間で、123 名の応募者に対して、課題提出件数は 114 件でした。
- ③ 出題数は全 4 問。縦組み、横組み、自動処理、修正作業等に関する課題を出題しました。
- ④ 応募者の InDesign 経験年数、制作環境は下記の通りです。

◎ InDesign 経験年数

経験年数比率の偏りは少なく、3 年未満のビギナーから 10 年以上のベテランまで幅広い層の応募がありました。

10 年以上	33 名	29%
3 年未満	30 名	26%
5 ～ 10 年	28 名	25%
3 ～ 5 年	22 名	19%
不明	1 名	1%

◎ InDesign 制作バージョン

InDesign CC 2020 が 42.5%と約半数を占めたほか、CC 2019、最新バージョンである CC 2021 の比率が高く、新しい環境で制作している方が多いことが窺えます。

InDesign CC 2021	21 名	18%
InDesign CC 2020	48 名	42%
InDesign CC 2019	24 名	21%
InDesign CC 2018	3 名	3%
InDesign CC 2017	9 名	8%
InDesign CC 2015	3 名	3%
InDesign CC 2014	5 名	4%
不明	1 名	1%

◎制作プラットフォーム

Windows が半数以上を占めました。

Windows	65 名	57%
Mac	49 名	43%

今後のスケジュール

①スコア表返却と証書の発行

JCST 全応募者に対し、2021 年 3 月中に課題採点結果のスコア表を送付します。また、一定の水準を満たした方に対しては、ジャグラ認定オペレーターであることを証明する証書を発行します。

② JCST 第 2 期の実施

ジャグラコンテスト委員会では、2021 年中に JCST 第 2 期の募集を開始すべく、現在準備を進めています。第 1 期で実施したテスト科目は InDesign のみでしたが、今後 Illustrator や Photoshop のテストを追加していく予定です。

詳細は、本誌および JCST 特設サイト（<https://www.jagra-contest.com/jcst/>）にて決まり次第お知らせしますので、ご期待ください。



昨年 11 月の JCST 実施発表記者会見にて
左から谷川副会長、中村会長、笹岡理事



SHOWA

ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の＜昭和謄写堂＞として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。
創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション & リサーチ

SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

年間活動

- 研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
- 会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで

SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

ショーワ

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目7番8号 TEL 03-3263-6141 (代) FAX 03-3263-6149

Horizon

Change the focus

「無線綴じ機 BQ-470
紙折り機 AFC-566FKT」をご愛用のお客様へ

『期間限定下取りプログラムのご案内』

(対象期間：2021年3月末ご発注分まで)

無線綴じ製本機 ICE BINDER BQ-500 と、紙折機 ICE FOLDER AFV-566FKT/564FKT の発売にあわせて、無線綴じ機 BQ-470 と、紙折機 AFC-566FKT をご愛用いただいているお客様を対象とした下取りプログラムをご用意させていただきました。ぜひ、この機会に新商品 ICE Series への買い替えをご検討ください。

下取り
対象商品



無線綴じ機 BQ-470

下取り
対象商品



紙折機 AFC-566FKT

作業効率と製本品質が向上

❄️ ICE BINDER 無線綴じ機 BQ-500



■ 特長

- ・高生産性
セット替えの高速化により、小ロットや1冊ずつ厚さが異なるバリエابل製本時にも高い生産性を実現します。
- ・高品質
ホリゾン独自のデリバリー機構により、厚い本体のPUR製本においても背にゆがみのない高精度な仕上がりを実現します。
- ・多様なシステム構成
本身自動投入装置LBF-500や寒冷紗供給装置GF-500を接続することで、本身投入や寒冷紗製本の自動化が可能です。省人化と生産性の向上を実現します。

生産性と折り品質が向上

❄️ ICE FOLDER 紙折機 AFV-566FKT / AFV-564FKT



■ 特長

- ・生産性の向上
ナイフストップバーの脱着作業を含めた様々な設定を自動化し、幅広いアプリケーションに迅速に対応します。また、ナイフ折り時の最適な給紙間隔をリアルタイムに計測演算し、最高の処理速度を引き出します。
- ・確かな品質
ホリゾン独自のローラーギャップ機構により、オペレーターのスキルに頼らない高精度な折りと再現性を実現します。
- ・ワークフローシステム
製本工程全体を最適化するホリゾンの次世代ワークフローシステムICE LINKと連携が可能です。

※弊社営業担当までお問い合わせください。

ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本社 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F TEL.03(3863)5361 (代) FAX.03(3863)5360
東京支社 〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9 TEL.03(3652)7631 (代) FAX.03(3652)8083
京都支社 〒601-8206 京都府京都市南区久世大蔵町510 TEL.075(933)3060 (代) FAX.075(933)4025
福岡営業所 〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津4-12-17 TEL.092(626)8111 (代) FAX.092(626)8112

印刷産業における取引環境実態調査

第7回：印刷産業の持続可能な発展に向けて



本誌では昨年7月号より、経済産業省が「印刷産業の取引実態の現状を把握し、持続可能な印刷産業への方策を探る」ためにまとめた報告書を抜粋・連載してきました。これまで6回にわたり、印刷業界の現状や課題について紹介してきましたが、報告書では最終章の「まとめ」として、「印刷産業の持続可能な発展」というテーマで開催した「検討会」の内容を掲載しています。

×

検討会について

検討会は昨年3月末、学識者および印刷業界団体の代表者など15名が参加（ジャグラーは中村盟理事を派遣）して、経産省にて開催されました。検討会では、調査の概要が報告されたうえで、「印刷産業の底上げの方向性について」議論され、①現状認識、②目指す姿、③打ち手——といった3つをまとめているので、以下順に紹介します。

現状認識

印刷産業の現状認識については、本連載・第6回目（2020年12月号）の最後に「これまでの連載のまとめ」として掲載しましたが、一言でまとめると「印刷市場は縮小傾向。稼働率も低迷・悪化しており需給に差が

存在。足許では価格競争も激化する中、今後も“印刷のみ”では先細り」という厳しい内容となっています（次ページ上表）。

目指す姿

以上の「現状認識」を踏まえ、検討会では以下の3つを「目指す姿」としてまとめています。

- ①持続可能な発展に向け、既存の事業環境の改善に限らず、「印刷＋α」の価値創出による需要増など両輪で目指したい。
- ②需要増加に向け、印刷に限らない価値創出が必要。ただし、価値創出を単独で実現し得る印刷事業者は限られると想定される。
- ③そのため、「価値を創出する」という目的で印刷業に留まらない多様な企業によるコミュニティ形成が目指す姿ではないか。

以上3点について、報告書では図版を交えて詳説しています。本誌では①③のみ次ページに紹介します。

「印刷産業における取引環境実態調査」に関する報告書

経済産業省HPよりダウンロード可能

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/contents/2019_printing_surveyreport.html



現状認識

印刷市場は縮小傾向。稼働率も低迷・悪化しており需給に差が存在
足許では価格競争も激化する中、今後も「印刷のみ」では先細り

印刷市場の 先細り	◎印刷出荷額・設備稼働率とも減少・悪化傾向 ①出荷額は毎年▲1.5%で、2018年度は5.2兆円。稼働率は69%で、5年前と比しても約3pt悪化 ②同傾向が続くと2025年度に出荷額は更に10%減の4.7兆円。同設備数の前提で稼働率は61%まで悪化
価格競争の 激化	◎供給過剰・ネット印刷通販により受注単価低迷 ①34%の事業者が受注単価減を実感 ②ネット印刷通販の価格攻勢とともに、顧客も当該の価格表を基準に値下げ交渉
事業の 改善余地の存在	◎営業・収益管理・事業企画など課題意識あり ①7割の事業者が営業に課題意識を、3割超の事業者が収益管理・企画に課題意識あり ②印刷外で付加価値を示す企業は比較的高利益
承継問題の 顕在化	◎承継目処なく事業継続も難しい事業者が2割超 ①高齢化が進む中、上記割合は高まる可能性 ②従業員・得意先（顧客・受発注先の同業者）への影響に鑑み、承継／廃業の判断が難しいと見られる

目指す姿① 産業全体で「目指す方向性」（たたき台）

持続可能な発展に向け、既存の事業環境の改善に限らず、「印刷＋α」の価値創出による需要増など両輪で目指したい

足許の事業環境改善

秩序ある取引構造 需要者・供給者ともに単価・納期など取引条件の適正化を考えるべきでは
①実勢価格・成果物に見合う取引条件の設定
②利幅を下げ、手間を増やす過度な外注回避
そのために、例えば以下の打ち手の可能性はあるか
→印刷物の種類・品質・プロセス（顧客との擦合せ、コンサルテーション等）に応じ、標準価格等を予め定めることで、ネット通販印刷に引け張られない価格設定・交渉を実現
→最低制限価格制度、低入札価格調査制度の徹底

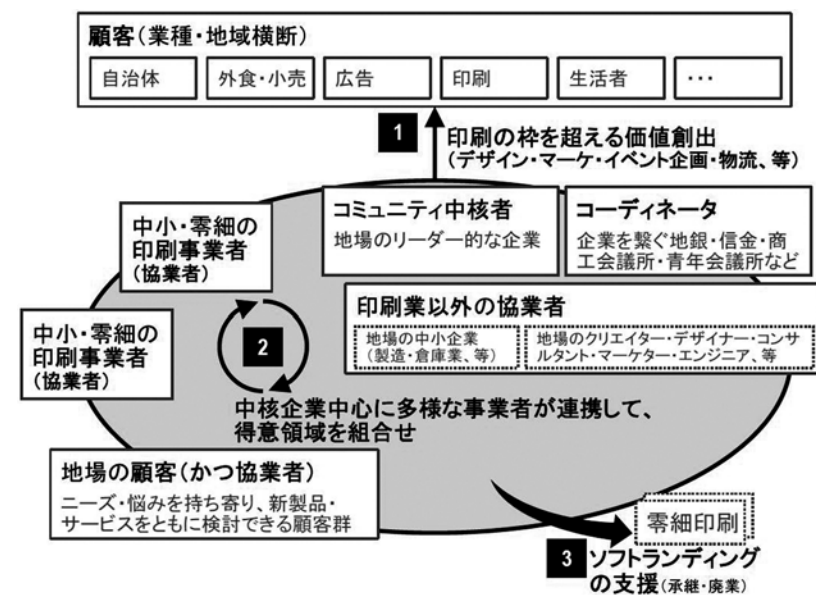


根本的な解決に向けて

- 「印刷＋α」の必要性と課題
業界として仕事を増やし、価値を出す幅を広げ、需要減・価格競争から脱却
→各社の強みに鑑み、専門工程への特化もあれば、印刷を軸に事業・顧客幅の拡大も狙う
- 事業継続方針の柔軟化
承継／廃業に係る懸念が払拭され、各経営者が最適な判断を早期に採れる
→同業・印刷業外で承継相手が見つけれられる

目指す姿③

「価値を創出する」という目的で印刷業に留まらない多様な企業によるコミュニティ形成が目指す姿ではないか



コミュニティの概要

- 1 印刷の枠を超える価値創出
①上流・下流工程への進出や、印刷による最終製品の価値向上
②印刷業に限らず地域の産業全体の活性化に寄与する
- 2 コミュニティ内での得意領域組合せ
①異業種とも連携して印刷に囚われない価値創出
②顧客とも協業し、ともに価値創出の余地を探る
③中核企業が牽引し、上記の座組や非競争領域の知見共有など推進
④印刷同業者間での効率的な分業
- 3 前向きなソフトランディング支援
①承継・廃業を考える経営者が、多様な選択肢を早期に相談できる
②規模・工程を拡大したい買い手側も適時に相談できる

目指す姿実現のために①

前述コミュニティにより産業の底上げを実現するには、いくつかのポイントをおさえる必要が有る

コミュニティによる産業底上げに向けた勘所（初期的）

- それぞれのプレイヤーが、コミュニティに参画・組むメリットを意識できる
 - コミュニティに属さなくても事業が順調なプレイヤーもいるので、参画するメリットが見える必要
 - 取組初期はうまくいかないことも想定され、試行錯誤の原動力となる将来的な便益への期待感が必要
 - そのため、立場は違えど各プレイヤーが思い描けるメリット（売上／利益／顧客接点など）の事前の説明が必要
- 印刷産業のみならず、地域産業全体が恩恵を受けられる
 - 需要を増やすという観点では、印刷業の顧客である地域産業全体の発展が重要
 - そのため、印刷企業だけが儲けるのではなく、最終顧客（地場の小売・商店街など）ひいては生活者まで潤う設計を行うことで持続性が保てる
- コミュニティが単発の繋がりではなく、多様な案件で繋がりを生むような持続的なものとなる
 - 特定の案件に限らず、コミュニティ内ではいつでも、誰でも、（飲み会含め）簡単に声を掛けて繋がれる状態が作られている
 - コミュニティの中の企業同士が、個別の案件ごとに得意領域を持つ企業が繋がり価値を創出する
- コミュニティのなかで自分に期待される役割が分かる
 - 従前、自社に閉じて受注型で動いてきたため、どのような役割が他社から見て価値が大きいかわからない可能性
 - そのため、コミュニティの中での自社の得意領域が分かり、他社に伝えられる仕掛けが必要

目指す姿実現のために②

前述コミュニティにおいて、印刷企業の個社の位置づけは以下の4タイプに向かう想定

方向性	役 割	課 題
地域の中核者	●異業種も含む地域産業の協業・発展を牽引 →地域の印刷企業、異業種を束ねて、新たな仕事を積極的に作る →先進的取組の同業間の共有、底上げを促す	●リーダーの発掘、動機づけ →異業種含めて横断的に取り纏められ、取組を牽引できるリーダーを見つける →明確なリーダーでなくとも、各地域でキーとなる企業・人材
それぞれ得意領域のある協業者	●強みを武器に自ら事業を続けつつ協業も行う →中核企業と協業する（コミュニティ作り） →ある工程や印刷方式に強みを有していたり、ある顧客業種の課題や業務を深く理解して、単体あるいは分業にて価値を発揮	●自社の得意領域の定義、他社との繋ぎ →自社の得意な領域を認識して対外発信する →得意領域強化のための人材のスキル転換
事業譲渡・売却	●保有能力・経営資源を異業種／同業に承継 →印刷設備や人的資産、顧客接点を求める他社に事業承継 →印刷機能を持ちたい広告代理店へ承継など	●事業を買いたい／売りたいプレイヤーの繋ぎ →売り手は事業の強み、得意な領域の発信 →承継（譲渡・売却）の必要性の早期検討と、相談できる仕掛け
計画的廃業	●関係者への影響をおさえつつ廃業 →廃業以外の選択肢を十分に検討したうえで、従業員や顧客、同業の取引先に負担をかけないよう準備して廃業	●関係者への影響をおさえる仕掛け →従業員が活躍できる場の確保、取引先が継続取引できる先の斡旋 →承継／廃業の早期検討と相談できる仕掛け

※次回はよいよ連載最終盤！ これら「目指す姿」を踏まえたうえで、どのような「打ち手」があるのかを紹介します

KOMORI

高品位フルカラーデジタル印刷機

Impremia C Series

インプレミアCシリーズは、KOMORIブランドの高品位フルカラーデジタル印刷機です。当社開発のカラーマッチングソフトウェアK-ColorSimulator 2との運用でオフセット印刷との容易なカラーマッチングを実現します。プロフェッショナルプリンティングの世界で求められるハイレベルなニーズに呼応。オフセット印刷に迫る高画質・高精細出力、美しさが変わらない卓越した画像安定性、広範な用紙対応力、そして付加価値を高めるフィニッシャー群を有し、高度な製品技術力と新たなワークフローによるトータルソリューションで、印刷事業における新しい価値を創造し、イノベーションをもたらします。

その仕事、
KOMORIのPODに
お任せください！

POD特設サイトにて
ラインアップ・活用事例を紹介中



D i g i t a l O n D e m a n d : T h e N e x t K o m o r i S o l u t i o n

KOMORI CORPORATION
www.komori.com

株式会社 小森コーポレーション
本 社 〒130-8666 東京都墨田区吾妻橋 3-11-1 TEL.03-5608-7806

理事会&委員会通信

ジャグラの活動報告です

——生産性向上委員会・経営技術研究委員会・マーケティング委員会議事録より

2020.11.25 生産性向上委員会（第5回）

1. これまでの活動のまとめ

全員が「PIC 活動カード」を提出し、稲満委員長がテーマ分けた。その件について意見を聞いた。

2. 今後の活動について

委員会活動の最終成果物は事例集作成とする。作成にあたって、現在行っている生産性向上活動の深掘りと、事例集めを中心に行っていく。

【事例集に関する主な意見】

◎まだまだどんぶり勘定の経営をしている会社も多い。まずはどんぶり勘定を止めましようというところからスタートする必要がある。

◎理想と現実のギャップを見つけることをスタート地点としてはどうか。

◎事例に入る前に、ムダを排除するための「見える化」→「ギャップを埋める」という手順のフローを示す必要があるのではないか。

◎見える化から入るのではなく、エイヤーでとりあえずやってみるということもあるのでは？

◎ギャップを見つけるためにエイヤーでやってみることもある。ギャップを見つけるための行動という意味では、見える化とエイヤーを分類する必要はないのでは？

◎事例集を「ギャップを見つける編」と「ギャップを埋める編」の2部構成とし、埋める編の方で具体的な事例を入れてはどうか。

◎中間納期という考え方で、原価分析表を作成している。必要であれば、事例集に掲載してもいいと思っている。

◎事例集にはキーワードやインデックスを付け、自社に活用できそうなものを探しやすいようにしてはどうか。

3. その他

稲満委員長より、北陸地協・SPACE-21 共催の生産性向上セミナーが12月17日に開催される旨、案内があった。

2020.12.9 経営技術研究委員会（第5回）

1. 取材先企業のリストアップ

各ブロックの取材先企業を下記の通りで進める。

◎東北ブロック 2社

◎中日本ブロック 3社

◎西日本ブロック 2社

2. ヒアリング項目の検討

向井委員長が作成したヒアリングシートをもとに、内容を検討した。

【決定事項】

◎向井委員長作成のヒアリングシートに委員会メンバーが回答してみる。その結果を踏まえ、取材用ヒアリングシートを完成させる。

◎ピックアップ企業への取材とは別に、全会員を対象としたアンケートを実施する。

◎宿題：次回までに委員全員がヒアリングシートに記入し提出する。

【主な意見】

◎実際の取材では、ヒアリングシートへの記入をお願いするだけでなく、電話や対面での取材を実施した方がよい。

◎ヒアリング内容をもう少し絞ってもいいのではないか。

◎社員の健康、長時間残業防止に関する項目を入れた方がよい。

◎コンプライアンスに関する項目を入れた方がよい→伊東委員が質問案作成の上、後日提案していただく。

◎全会員へアンケートを実施する際は、なるべく記述式の項目を減らし、○×で簡潔に回答できるようにする必要がある。

3. キング印刷見学会について

2月に開催予定のキング印刷見学会兼委員会については、コロナ感染防止の観点から5月以降の開催を目途に延期することにした。

4. その他

12月17日に北陸地協・SPACE-21 共催の生産性向上セミナーがZoomで開催される旨、宮崎副会長より案内があった。

●出席

委員長：向井一澄 副会長：宮崎真
委 員：渡辺辰美、熊谷晴樹、伊東邦彦、稲本創、樋貝浩久、
竹内正敏、安達睦男
事務局：阿部奈津子

2020.12.21 マーケティング委員会（第5回）

1. ヒアリング項目の検討

質問内容整理案の内容をもとに、委員会メンバー内でテストヒアリングを実施することを宿題としたが、その結果について発表した。

●ヒアリング企業：ウイング

聞き手：山本氏

◎ウイングのホームページを見ながらヒアリングを実施した。

◎予備知識なしでインタビューしても深い話まで聞けないと感じた。

◎松下さんが丁寧に話してくれたので、質問内容に不足は感じなかった。

●ヒアリング企業：文化ビジネスサービス（BBS）

聞き手：松下氏

◎BBSについては予備知識があったため、ヒアリングは短時間で終了した。

◎ヒアリングを受ける側も事前に質問内容を理解し、わかりやすく説明できるよう準備をしておく必要があると感じた。

2. ヒアリング企業への事前アンケートについて

予備知識を得るために、ヒアリング企業へ事前アンケートを実施してはどうかと、齋藤委員長よりGoogle フォームを利用したアンケートの提案があった。

【宿題】

◎委員会メンバー内テストヒアリングを実施していない方は、次回までにヒアリングを実施し、委員会で発表する。

◎ヒアリング対象企業向けのGoogle フォームによる事前アンケート内容を精査し、次回委員会までに修正版を作成する（対象：齋藤委員長・事務局宿題）。

【主な意見・質問】

●報告書について

◎読み物として仕上げる際、聞き手の力量によるバラつきが出る恐れがある。プロのライターを入れてはどうか？

◎そもそも報告書は読み物形式にするのか、アンケート形式にするのか、その両方か？

◎アンケート結果は、掲載しても「ふーん」で終わってしまう可能性が高いので、掲載する必要はないのでは？

◎事業を始めたきっかけなどはストーリー仕立てにすると読みやすい。

◎報告書はタイミングが合えば印刷物創注と一緒に合本にしてもいいのでは？

◎一番大事なのは、難しいことをわかりやすく伝えること。

●ヒアリングについて

◎電話取材のみでは限界があるので、訪問取材が必要になる可能性がある。以前の取材では、2度訪問した。

◎ヒアリング企業の予備知識を得るために、事前アンケートに回答してもらってはどうか。

◎一度事前アンケートに記述してもらって、その内容を委員会に持ち帰り、どの事業を深掘りして聞くかを決めたとうえで取材すれば、ライターは要らないのでは？

◎ひとつの事業・商品に絞って、どのような企業と組んで、原価がいくらで、どのぐらい売れて、いくら利益があったか、具体的な話が聞けるとよい。

◎ヒアリング対象は50社目標だったが、そうすると1人8社ほどの担当となり、負担が大きいのでは？

◎業界紙から「2020年の気づきと2021年への取り組み」という調査依頼が来た。この内容とかぶらないようにしたい。

◎ヒアリング対象企業への事前アンケートについて

◎現在のGoogle フォームに設定されている質問は細かすぎる。

◎もう少し質問項目を減らし、回答しやすいように修正してはどうか。

●出席

委員長：齋藤秀勝
副会長：岡本泰
委 員：吉澤和江、田治宏敬、松下忠、山本康彦
事務局：阿部奈津子



全国どこからでも受講できる

オンライン指導ご相談受付中

Illustrator・Photoshop・InDesign・Lightroom・Acrobat・
印刷用PDF・Dreamweaver・ウェブ基礎・ウェブアクセス解析・
HTML・CSS・WordPress・JavaScript・Premiere Pro・
After Effects・映像制作基礎 ほか全36講座

ジャグラ本部9F JaGraプロフェッショナルDTP&Webスクール

<https://www.jagra.or.jp/school/>

ジャグラ

2.13 第2回全国キャラバンを開催

青年部SPACE-21／福岡と全国をWebで繋ぐ

ジャグラ青年部 SPACE-21（本村豪経代表幹事／福岡）は、2月13日、福岡市において「第2回全国キャラバン」を開催しました。

×

キャラバンは当初、「リアル会議＋Web参加」というハイブリッド形式で開催する予定でしたが、新型コロナの全国的な感染者増に加え、開催地福岡でも1月に緊急事態宣言が再発令されたことから、現地集合は不可能と判断し、Zoomを利用したオンライン開催となりました。参加者は40名。

同キャラバンは印刷会社とメーカー・ベンダーが、その時々テーマに沿ってざっくばらんに議論することで、問題解決・相互発展・関係強化を目的としており、フェイストゥフェイスで開催するのが最良ですが、コロナ禍の状況でも実行できる新しいスタイルにチャレンジすることもSPACE-21の経験になるだろうと、今回は全てをオンライン開催としたものです。

当日は、会場や機材をご提供いただいたリコージャパン様の現地ショールームにSPACE-21幹部3名が集まり、ファシリテーター役を務め、各地からの参加者たちと「生産性向上・働き方改革・営業戦略」の3つのテーマについてグループディスカッションを行いました。

コロナ感染に万全の注意を払いつつ、事前準備から当日運営まで進めましたが、未知のことだらけで、多くの方々から助言やご協力をいただき、なんとか無事に終えることができました。今後もご参加いただいた方々の意見を取り入れながら、さらに魅力的なイベントへ進化させていきたいと思います。

（報告：SPACE-21 幹事・山本康彦／山口）



オンライン開催となったSPACE-21全国キャラバンの模様

ジャグラ

2.19 東北地協幹事会を開催

Zoom会議に15名が参加

ジャグラ東北地方協議会（熊谷晴樹会長／宮城）は、2月19日に幹事会をZoom利用で開催しました。

×

当日は15名が参加し、大橋邦弘地協事務局（宮城）が司会、伊東邦彦福島県支部長がZoom管理者として会議を運営しました。（東北地協は独自アカウント取得済）

熊谷会長の挨拶の後、2月13日深夜に発生した地震により、宮城・福島において、印刷機材の移動や水道管破裂による浸水などの被害が報告されました。場所によっては震度6強という強い揺れでしたが、幸いにも津波の発生は免れたことで、その他の支部では人的被害も含めて大きな被害には至りませんでした。この3月で東日本大震災から10年になりますが、この間の教訓・対策が活かされているかもしれません。

幹事会での議題と各支部の状況は以下の通りです。

議題1 全国の動き／熊谷正司副会長（秋田）から説明

議題2 東北地協総会福島大会の件

5月開催予定であったがコロナの状況が見通せないため、書面決議の準備を進め、総会と切り離して地協福島大会を行う方向で、時期など今後検討することにしました。

議題3 各支部の動き

①各支部での会議はZoom利用もしくは換気等感染防止対策に注意してのリアル会議ですが、新年会やイベントは全て中止となりました。

②各支部とも、官公庁などの予算カットで印刷発注が減少するのではないかと、それから回復できるのかが大きな課題だが、やるべきことが山積している中で、どうしたら良いのかという、不安の声も出ています。



Zoomで参加した東北地協幹事の皆さん

③地方に有りがちだが、コロナ感染者が都市部に比べ少ないが故に起こる風評被害、事業承継問題の顕在化の加速など、こういう中でコロナに負けず、縮小せず、新たな設備投資をして巻き返しを図り頑張るという会社もありました。

議題4 その他

東海林正博全国監事と向井一澄全国理事からの講評・総括があり、次回会議は5月と決定しました。

約2時間のZoom会議でしたが、昨年2月の地協幹事会以降、丸一年リアルに会っていないので、一日も早く皆と直接会い、語り合える日を心待ちにしています。

（報告：向井一澄理事／岩手）

日印産連

2.15じゃばにうむ2021をWeb開催

ジャグラからニシキプリントさんが事例発表

ジャグラなど印刷関連団体10団体で組織する日印産連は、2月15日、印刷会社が取り組む地方創生・地域活性化の事例発表会「じゃばにうむ2021」をWeb開催しました。

×

例年は東京の日印産連本部（印刷会館）において行われているイベントも、今年はコロナ禍の影響により、全ての事例発表はオンラインにて行われました。主催者挨拶に続いて、広島県の山田仁副知事が「地方創生に向けたDXの推進」というテーマで基調講演を行い、その後、全国6社の事例発表が行われました。

ジャグラからは広島県支部の㈱ニシキプリント・宮崎社長が『Webサイト「安芸ん堂」運営を通じて広島の良いモノを紹介する取組みと地域貢献」というテーマで事例発表を行いました。その他の発表テーマは下記の通りです。

- ◎「クラウドファンディング事業 FAAYO しが」（滋賀）
- ◎「見せ方を変えると反応が変わる。プロゴワスの地方創生とBPQ」（鹿児島）
- ◎「地元の魅力を伝えたい。何でもできる印刷屋」（山形）
- ◎「地域とのコラボレーションから生まれたもの」（福岡）
- ◎「当社発信。皆で歩む地域経済活性化」（神奈川）

講演動画が「じゃばにうむ2021」のページから閲覧できます。<https://www.jfpi.or.jp/topics/detail/id=4932>



「じゃばにうむ2021」で講演した広島・ニシキプリントの宮崎社長



アドビ

InDesign 日本語版 20周年を祝う

ユーザー有志運営でオンラインイベントを開催

アドビのDTPソフト InDesign 日本語版がリリースされてから20年経つのを記念して、ユーザー有志の企画運営によるオンラインイベントが2月6日に開催され、好評を博しました。

×

イベントを主催したのは「InDesignの勉強部屋（愛知）&有志一同」で、ジャグラDTPスクールの鷹野講師も名前を連ねています。当日は午後1時から8時過ぎまで、対談や座談・セミナー等、十数本のプログラムが行われ、ジャグラコンテストでInDesignマイスターの称号を得た日経印刷・戸田マイスターも、そのテクニックを披露するとともにジャグラをPRしてくれました。

イベント冒頭にはアメリカより日本版の開発に携わった関係者の苦労話も披露され、我々印刷業者にとって、もはやインフラともいえるべき InDesign の過去から現在までを辿りつつ、未来への要望も交えながら、この20周年を皆で祝した1日となりました。

講演動画がYouTubeにて閲覧できます。

https://www.youtube.com/playlist?list=PLF_lcvNhVWn9buL40IFoJJbQgD4ZixhsR



20周年を祝した特設サイト

左から主催者の森／鷹野両氏
画面はアドビの岩本製品担当日経印刷・戸田マイスターも
テクニックを披露

会員の異動（新入会）

- ◎㈱塚田美術印刷（秋田） 塚田 高
〒010-0921 秋田市大町1-6-6
Tel 018-823-5551/Fax 018-823-5553
- ◎㈱K-SOCKET（東京・港） 橋浦 隆一
〒108-0022 港区海岸3-25-8 文洋社ビル
Tel 03-3769-2720 Fax 03-3769-2715
- ◎㈱昇文堂（東京・港） 田中 真文
〒101-0025 千代田区神田佐久間町4-6
Tel 03-3862-0045 Fax 03-3864-4557
- ◎㈱アソートロジテム（東京・文京） 茂木廉之介
〒136-0075 江東区新砂3-10-8 丸一運輸新砂物流センター2F
Tel 03-6458-6273 Fax 03-6458-6274
- ◎㈱アクトプロ（東京・文京） 新谷 学
〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-6-7 ウンピン神田ビル2F
Tel 03-5289-4400 Fax 03-5289-4401
- ◎㈱コトブキ（東京・城東） 渡瀬 錦二
〒130-0004 墨田区本所2-9-3
Tel 03-3625-9224 Fax 03-3625-5139

TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。



東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日(月～金) 9:00～17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



Lithmatic
http://www.lithmatic.net

特別企画

2011.3.11 東日本大震災から これまでの10年を振り返る

岩手・宮城・福島県支部 復興への道程

未曾有の災害となった2011年3月11日の東日本大震災より、この3月で10年が経ちました。昨年来のコロナ禍のこともあり、話題にのぼることも少なくなった感がありますが、本年2月13日、同震災の余震が発生したり、一見、復興が済んだように見える被災地においても、福島原発の状況など、まだまだ途半ばというのが現状でしょう。忘れてはいけないこの震災から、被災地域の皆さんはどのように立ち上がってきたのか——岩手・宮城・福島各支部の皆さんに振り返っていただきました。

岩手 震災後10年を振り返る

岩手県支部長 菅原正行

東日本大震災後10年の復興の軌跡を、震災時・文化典岩手大会・コロナ禍での現状、3つに区切って振り返ってみます。

● 東日本大震災による被災(2011.3.11)

あの日は、営業で盛岡市にいました。郊外の青山地区を走行中、交差点の50メートル手前で、突然、道路が波打つような凄まじい揺れを感じました。信号は直ちに消え、車から多くの人々が飛び出し、右往左往。本当にびっくり、いったい何が起きたのか信じられない光景でした。それが何であったかは、車のラジオニュースで知ったのです。

「午後2時46分三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の日本国内史上最大の巨大地震が発生。宮城県、岩手県、福島県、青森県を中心に強い揺れ、大津波が重なり、死者行方不明者計り知れず……」。

その後、一閃の我が家まで帰路が大変でした。盛岡を出て4号線を下り花巻・北上のどの交差点を通過しようにも、信号という信号は全部ストップです。無秩序の中を右往左往、前方注意し、お互いの表情が確かめられるくらいのスピード、のろのろ安全運転で、帰宅は夜の10時を過ぎていました、普段の3倍の時間はかかったでしょうか。本当に大変な一日でした。

さて地震による被害ですが、会員企業の地域でも大船渡市の人的被害が最も酷く、共和印刷では紺野社長夫妻がお亡くなりになり、(有)丸星印刷・本田社長の会社では、スタッフのお兄さん、お姉さんそしてお母さんがお亡くなりになりました。

被災会員に対するジャグラ本部の対応は本当に早く、感謝感



震災翌月、被災支部の詳細を伝えた本誌2011年4月号
その後ほぼ2年間、毎月被災支部の状況を伝え続けました

激でした。3月25日、本部理事会において被災会員に対して義援金、会費免除を決定。さらに4月16日、本部より沖専務が大船渡市の会員を見舞ってくれました。お陰様で岩手県支部は全国会員からの義援金で、会費を半額にするなど、負担軽減の方策を実施することができました。私たちは復興に向けて、大きな元気・勇気をいただいたのであります。

● 第59回ジャグラ文化典岩手大会の開催

2017年6月9～11日、ジャグラ文化典岩手大会が盛岡市で盛大に開催されました。キャッチフレーズは「東日本大震災から6年～これまでのご支援に対する感謝の意を示し、復興の軌跡を表す～」でした。震災時、全国の皆様方から多大なご支援を頂戴しましたが、これに応え、現在の姿を見ていただこうと、このキャッチフレーズが決定したのです。

1日目は、記念ゴルフコンペ・ウェルカムパーティー、2日目は定時総会・文化典・講演会・懇親会、3日目は観光ツアーといった日程で、全国のジャグリストの皆様は岩手の復興の姿を県央の盛岡市、花巻市、県南の平泉町そして三陸沿岸の岩泉町、宮古市、大槌町と大変忙しく駆け足で見させていただきました。私たちは東京と北海道大会への参加を経て、「おもてなしの心」を学びつつ、震災時のご支援へのお返しとして、皆様に「大きな満足」

3.11 私たちは忘れません



2017年6月、被災地岩手・盛岡で開催されたジャグラ文化典には全国から330人の会員が参加した
左から式典・大船渡印刷の熊谷社長の被災体験講演会・観光ツアー／平泉中尊寺にて

を感じていただけるよう運営いたしました。今は懐かしく、感謝の気持ちで振り返っております。ありがとうございました。

さて、この岩手大会において、(有)大船渡印刷の熊谷雅也社長が「震災体験と復興の軌跡」という記念講演を行いました。ここに要点を抜粋し、心に深く留めたいと思います。

(有)大船渡印刷さんの防災・BCPの取り組み

日頃から、「経理は売掛帳と売上データを持って逃げる」「DTPオペレーターは過去データを持って逃げる」「避難場所は近くの神社」という災害時の避難行動を確認・訓練していた。これらを実践できたことで、社屋は流失したが、営業を早期復旧できた。熊谷社長は以下のように振り返っている。

- ① PC とソフト・データ、それを扱う人材が揃えば、万が一の災害にあっても営業を早期に再開できる。
- ② 日頃からデータのバックアップを行い、避難時の行動を確認し合うことが重要。
- ③ 社員各自の行動で、お金に換えることができない貴重なデータを持って逃げることができた。
- ④ 被災直後、「全社員を継続雇用して再建する」という私の決心を宣言。それが社員を安心させ、その後も一生懸命働いてくれる動機になった。

● コロナ禍との闘い・印刷の未来 (2020.2 ～ 2021.2 ～)

人生七転び八起きという諺があります。特に昨年、今年と私はこの諺の意味を深く噛み締めています。

大震災から満10年を迎えた今、被災した沿岸地域、陸前高田市、大船渡市、大槌町、宮古市、山田町、久慈市は見違えるように生まれ変わりました。どの地域も着実、確実な歩みを続け街並みは綺麗に整備され、そこに暮らす人々の暮らしも何とか往時の勢い、賑やかさを取り戻しつつありました。荒れた海も徐々に豊かになり、養殖業による海産物の回復は水産業に関わ

る人々に元気、勇気を与え、三陸沿岸に多くの観光客を呼び戻す大きな力になり始めていました。

ところが、今度は突然のコロナウイルス感染症の蔓延とパンデミック。やっと上昇気流に乗りつつあったのですから、ガッカリ意気消沈です。パンデミックによる影響は深刻で、直接的被害は観光・宿泊業そして飲食業に起きました。そして運輸業、航空各社へと徐々に影響が拡大していきました。さらには集客を目的とするイベント業、スポーツ界にも大きなブレーキとなりました。もちろんこれらは私たち印刷業にとっても大きな痛手となりました。創業者である親も経験したことのない程の受注不振、景気の落ち込み、印刷業の存続さえ危うくする、とんでもない災いです。

印刷は基本的には世の中のすべての業種業態の商売が普通に、平和に展開されれば需要が発生し、継続できる商売、言わば隙間産業であります。今回のように1年を超えても尚コロナ禍が全世界で猛威を振るい、人命を脅かしている状況の中では、とうてい如何なる産業も商売も成り立ちは不可能です。この一年、私たち印刷業は、国の企業救済のための諸施策（雇用調整助成金支給、持続化給付金の支給、会社経営資金の無利息融資等々）を受けることによって、何とか会社を維持してきました。しかし、国の救済策にも限度が見えてきた今、我々はどうすべきか、何をすべきか、大いに悩むところであります。

震災後10年目を迎えて、私たち印刷業はこの危機をどのようにして乗り切るのか——今はこれが問題です。コロナ禍の終息が明確に見えない今、私たちが進むべき道、方向をどのように描いたら良いのでしょうか？ 印刷業の在り方を根本的に見直す時期に来ていることは確かです。印刷の未来を白いキャンバスにどう描くかが、私たちに投げかけられている極めて重要な課題であります。



日本自費出版ネットワークの会員でもあった大船渡・共和印刷さんでは紺野社長ご夫妻が津波被災にて亡くなりました
左から、被災社屋、がれき、がれきから見つかった同社作品（撮影：同ネットワーク・山崎良幸さん）

宮城県支部の復興支援プロジェクト「みやぎ はじめの一步」



《第一弾》石巻応援プロジェクト
石巻の水産会社と仙台のセタを
セットにした応援商品を販売 (2012 年)



《第二弾》仙台セタプロジェクト
南三陸町の子供たちの復興の願いを
仙台セタに飾る (2012 ～ 2014 年)



《第三弾》ひまわりプロジェクト
津波被災地の鎮魂と復興を願って
ひまわりの苗を植える (2014 ～ 2018 年)

宮城 震災から10年

宮城県支部 大橋邦弘

● 震災当時

自社と隣接した父親の住居は土台から家屋が外れ、屋根が裂け、ほぼ全壊の様相でした。幸いにもガスが生きていたので煮炊きには不自由しませんでした。電話は通じず、長らく停電で仕事に復帰できる目途は立ちませんでした。家人の実家は宮城県東松島市にあって津波の直撃を受け、当時は家族の安否さはっきりしない状況でした。あまりの衝撃に復活する気力さえ湧かなかったので、家屋の片づけ等は後回しにして、近隣の避難所に炊き出ししたおにぎりや取引先の紙屋さんから戴いたトイレットペーパーを持って回っていました。そうしているうちに家人の実家は壊滅したものの、姉夫婦の無事が分かり安心しました。

震災から1週間ほどして、塩竈で仕出し屋を営む後輩に電話を入れたところ、奥さんと娘さんが津波に吞まれて命を落とし、自身も重傷を負ったことがわかりました。急いで現地に向かうと国道45号線にはバリケードが築かれ、その先には津波に押し流された家屋や車が散乱していました。バリケードを押し退け、道端に横転している車を避けながら後輩の会社に着き、励ましというか実際には何も掛ける言葉が見つからず、30分ほど一緒にいた帰り道、ジャグラの先輩、鈴木嘉仁さんの工陽社が近くにあることを思い出し、寄ってみたところ、印刷工場が水没したご本人が目一杯のカラ元気でお出迎えてくださいました。

● 「みやぎ はじめの一步」を思い立ったわけ

自社の電気が復旧し、電話が繋がるまではあと3日ほど掛かりましたが、やっと3月20日過ぎに営業を再スタートすることができました。再スタートと言っても、電話が通じて印刷機械をリョービさんが調整してくれただけなので、事務所の戸は傾き、雨が降ると至る所から漏りする状況でした。しかし、震災直後からしたら天国で贅沢は言ってられません。近所の避難所には家族と家を失った人がひしめいているのです。

週末の度に家人の姉家族のケアと、家族を失った後輩や会社の水没した先輩のところを回っているうちに、だんだん人に奉仕する大切さを知ることとなり、同時に個人としての活動の限界も感じていたので、機会があれば組織として災害復興の支援活動

をしたいと思い始めたのがこの頃でした。

年末の支部懇親会の席で、熊谷晴樹現支部長と社屋崩壊から会社再建の目途がついた田端章前支部長に、『大震災から復興を目指す人達が「はじめの一步」を踏み出すのをジャグラ宮城県支部として一緒にお手伝いしたい』という旨の相談をしたところ賛同をいただき、支部の任意グループ「みやぎ はじめの一步」として活動を始めることになりました。

● 活動をしてみて

第一弾として、「石巻応援プロジェクト」を意気込んで始めましたが、当初は支部内でも反応が薄く、目算通りの販売数には至りませんでした。そのなかでも冲専務はじめ本部役員の皆さんが『大橋さん達が頑張ってるから僕も買うよ』と応援してくださったのは本当に嬉しい出来事でした。結果的には220口を販売できましたが、経理業務に不慣れな私は熊谷支部長に帳面を任せっきりにして、ご負担を掛けることになってしまいました。熊谷支部長、ご尽力ありがとうございました。

第二弾の「仙台セタプロジェクト」からは、少しずつ支部会員の皆様のご理解とご協力を頂けるようになり、第三弾の「ひまわりプロジェクト」では東京の友人・野田晃司くんの助けもあって、東京地協の皆さんがボランティアに駆けつけてくれる程になりました。支部役員の松井正夫さん、荒木和之さん（故人）、高橋正人さん、柿沼徹さんの4人がいつも一緒に力を貸してくださったことは、自分のなかで一番嬉しかった収穫です。

● 吉岡会長視察

震災後、本部理事の仕事をさせていただくようになり、会議の席で折に触れて社会貢献としてのボランティア活動の有用性を説いていたところ、吉岡新会長（当時）より「現地視察をしたい」というお申し出をいただき、井上富美子元千代田支部長と谷口理恵現城東支部長のお三方で宮城に来ていただきました。「ひまわりプロジェクト」の概要を現地にて説明し、震災追悼碑にお参りした後、水没社屋を立派に建て替えられた鈴木先輩の工陽社さんにて、震災当時からそれまでの復興軌跡を伺いました。



満開となったひまわりの花々

工陽社さんにて
左から鈴木社長、
吉岡会長（当時）、
井上さん、谷口さん



必死に会社を再建されてきた鈴木先輩にしてみれば、ジャグラの現役会長が話を聞いてくれることはたいへん嬉しかった様子で、私にとってもジャグリストの絆を感じたもので。

● ありがとう ジャグラ

2011 年秋にジャグラから第 2 次義援金が宮城県支部に 150 万円届けられ、それを均等割りにして 1 社あたり 7 万円を支給しました。皆さんの気持ちが詰まった 7 万円は本当にありがたく、いただいて来てすぐ仏壇にあげたのを覚えています。

今年の正月、熊谷晴樹支部長と私が新生印刷さんを訪ねたところ、佐々木加津子専務が殊の外喜んでくださいました。新生印刷さんは佐々木専務のご主人である佐々木勝喜社長が創業され、宮城県支部の世話役として長い間ご夫婦で尽力されてきました。それがコロナ禍で思うように人の行き来ができなくなり、随分寂しい思いをされていたようです。

小さな印刷屋さんが集まって、力を合わせて業界の発展に共に歩んできたのがジャグラの姿です。こういう組織はもう時代遅れなのかもしれませんが、お互いを補い、力を合わせて仕事をしていくスタンスは、仕事の形としては理想的だと私は今でも思っています。

コロナ禍が明けたらジャグラが再び活性化することを心からお祈りし、自分がジャグラにできることを一生懸命取り組んでいきたいと思います。

福島 震災からの 10 年

福島県支部長 伊東邦彦

● 先の見えない戦い

2008 年からのリーマンショックの影響を受けて業績が低迷し、苦しんだ後、少しばかりの景気の高揚を見せ始めた 2011 年。私たち印刷業の書き入れ時であった冬の終わりにそれはやってきました。2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分 18 秒、マグニチュード 9.0。津波、建物の被災、交通の分断、停電、断水、流通の停止等々、今まで体験したことのない災厄が一度に起こりました。もちろん福島県支部の会員各社は操業を停止し、この災害からの復旧に動き始めることになります。暗闇からの再興でした。ところがあるところか、福島県支部はもっと質の悪い事件に遭遇します。福島第一原発の爆発です。立ち入り禁止区域が広がっていくという目に見えぬ恐怖に立ち上がる気力さえも奪われた状態となり、さらに深い暗闇に落ち込んでいくことになるのです。「福島県」



震災から 1 年半後の福島県支部の状況を伝える本誌 2012 年 9 月号の座談会写真は前列左より、斎藤ジャグラ常務（聞き手）、長瀬印刷・長瀬支部長、キング印刷・伊東氏、後列左より、イマジメント・鈴木副支部長、第一印刷・古川氏、共栄印刷・有賀氏（役職名は当時のもの）

という名を背負うがゆえに、その後、復興バブルと言われた経済の立て直しからも隔絶され、放射能被害の避難民を抱えながら先の見えない復旧の戦いに挑むことになりました。

● 地域での復興の差

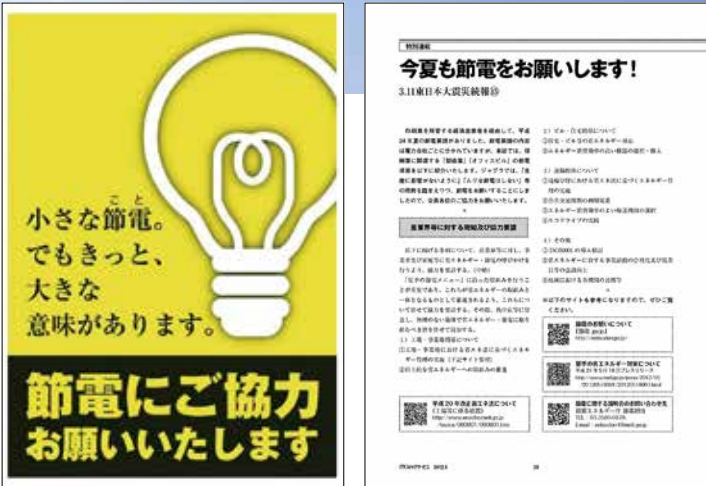
福島県は比較的人口が集中する都市を中心として、いくつかの商圏に分かれます。福島市、郡山市、いわき市、会津若松市、県南地域です。福島県支部の会員はこの中で、福島市、郡山市、いわき市に点在しますが、震災の被害とその復興の方向性は差が生じています。

◎いわき市

海岸線をもついわき市地区は、津波の被害から始まりました。長瀬印刷では打ち寄せる海水で工場が浸水してしまい、全面的な稼働停止に陥ります。塩水に浸かった印刷機は買い替えを余儀なくされますが、その後グループ補助金という援助の制度で新しい印刷機が稼働し始めます。原発の放射能の影響を恐れた多くの市民が一時的に避難を始めたのもいわき市が最初でしたが、実際の放射能の影響が少ないことがわかり始めた震災の 1 年後あたりから急速な復興の動きが始まりました。長瀬印刷もいろいろな補助金、助成金を利用しながら新しい事業展開を進めることになりました。震災前までの復興という視点ではまだまだ及びませんが、着実に復活の歩みを続けています。

◎郡山市

内陸に位置する郡山市にとって最も大きな被害は、軟弱な地盤に対して地震がもたらした道路網、交通網の遮断でした。原発の風評被害と重なり多くの産業が停止し、その回復に時間がかかったのは言うまでもありません。もちろん印刷業界もその影響から低迷を続けました。ゆっくりとした交通網の回復と共に経



電力供給ひっ迫の為、節電のお願いを伝える本誌 2012 年 6 月号震災年には東京など一部地域で計画停電も実施された

済が動き始めて緩やかではありますが復興が開始されました。ところがあろうことが令和元年 10 月の台風 19 号の水害でもう一度大きな痛手を負うこととなります。共栄印刷では社屋工場の水没に遭いました。全ての印刷機が停止、補修、買い替えと億単位の被害となりましたが、震災の経験から、補助金、助成金、そして保険という準備があって、新しい印刷機で再スタートを切っています。さらには先行き不透明になり始めた同業他社に M&A を行い、経営基盤を整え始めています。震災を乗り越えた経験が、新しい災害に対しての防御になった典型的な例と言えるでしょう。

◎福島市

郡山市の北側に位置する福島市。内陸ゆえに津波の被害もなく地盤の強さから見た目の被害も軽微でしたが、以南の交通網の断絶からほぼ動きが取れなくなります。そして福島第一原発の爆発時の風向きから、避難地域以外で最も原発事故の被害を受けたのが福島市でした。放射線量が高いとはいっても生活には支障がないレベル。ところが目に見えぬ恐怖は多くの人口流出を生みます。経済は低迷し、もちろんのこと印刷会社の業績は低迷を続けます。これが単なる風評であることは、わずか 10km しか離れていない県境の先で復興バブルが進行していたこ

震災余震発生！ 改めて災害時への対策・対応をチェックしておきましょう！

● 2.13 東北地方での震度 6 強の地震について

2 月 13 日 23 時 8 分頃、福島県沖を震源とした M7.3 の地震が発生し、東北地方で最大震度 6 強を記録したほか、北海道から広島まで幅広い範囲で揺れを感じました。東日本大震災の余震とのことですが、東北地協の報告によると、岩手は大きな被害なし、福島はキング印刷さんで水道管破裂により工場が 3cm ほど浸水（改修済み）、宮城では建物にヒビ（3 社）、机上書類の散乱（3 社）、印刷機械等のズレ（4 社）、PC・プリンタ等の落下（2 社）との被害状況とのことです。これを受けて、ジャグラは宮城・福島両支部に各 10 万円の災害見舞義援金を支払うことにしました。

● 災害時の対応情報をアップデートしましょう！

地震・台風・大雨大雪など、災害に際しての対応をまとめたガイドブック・チェックシートなどが各自治体で準備されており、随時アップデートされていますので、定期的にチェックしましょう。日本語版

【記録より】全国ジャグラ会員からの義援金は 1777 万円
ジャグラの義援金活動は、2013 年 6 月の文化典名古屋大会まで続き、総額 1776 万 6080 円が被災支部*に 5 次 にわたって配分されました。皆様方のご協力、改めて御礼申し上げます。
※岩手・宮城・福島その他、茨城・千葉・東京にも計 60 万円程配分されました

とても明らかでした。キング印刷はこの福島市にある支部会員です。震災の後に低迷した売り上げは元に戻っていません。というよりもさらに低下しました。選択したのは復旧ではなく再構築でした。最後まで風評被害に苦しんだ土地ゆえに、賠償金というお金が多く流れ込んだのも福島市でした。キング印刷はその資金を元に、社内の生産機械をほぼ全て買い替えるとともに、リセットと再スタートを切りました。復興というにはあまりにもイメージの違う道を歩き始めたのでした。

● 復興とは何か？

いずれにせよ震災からの 10 年、福島県支部会員を含む印刷企業には大きな変化を要求された時代でした。変化、変革、進化、変容……、あらゆる単語でずっと語られてきた企業としての使命を強制的に突き付けられた震災であったように思います。

最悪の状況に墜ちた企業が何をすべきかを考えざるを得なくなったときに、動き始めた先は「復興ではなく再構築」であり、取り戻すのではなく新たなものを手に入れる渴望でした。ほんの少しその意識を持つことができた企業の在り様を「復興」と称すべきなのかと感じます。結果はまだ出ていません。しかし、東日本大震災のように地域限定ではなく、明らかに長く先の見えない大災害であるコロナ禍に対して、後ろを向くことなく戦う姿勢を持続ける福島県支部の各社の精神は、震災復興を目指した歴史があるからだと感じています。

「私たちは復興したのでしょうか？」 今も、そして恐らくこれからも自分たちに問いかけながら、明日を目指していきたい。震災からの 10 年が決して失われた時間ではなかったことを信じ、3 月 11 日を迎えることにします。
私たちは元気でやっています！

だけでなく、英語・中国・韓国語など各国語版や、高齢者向けの大活字版などが用意されている自治体もあります。また、災害伝言ダイヤルや災害情報アプリなどの使用方法も、会社ならびに各御家庭で確認しておきましょう。



例えば東京都では女性目線でもとめたガイドブック『東京くらし防災』なども用意されています。イラスト豊富で簡潔なのでお子さんと一緒に防災を考えることもできるでしょう（<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/1005427/1005746.html>）

事務局日誌と今後のスケジュール

2月の事務局日誌

- 3日 「page2021」 開会式（池袋サンシャインシティ）→欠席：リアル展示会中止 & オンライン開催のみにて、プライバシーマーク審査会（本部）
- 5日 ジャグラ BB 委員会
- 9日 プライバシーマーク現地審査（大阪）
- 13日 SPACE-21 全国キャラバン in 福岡（Web 会議）
- 16日 プライバシーマーク現地審査（埼玉）
- 17日 マーケティング委員会（Web 会議）
- 18日 広報委員会（本部）
- 19日 プライバシーマーク現地審査（大分）
- 22日 総務委員会委（Web 会議）
- 24日 プライバシーマーク現地審査（大阪）、経営技術研究委員会（Web 会議）
- 26日 印刷物創注委員会（Web 会議）

3月のスケジュール（2月末時点）

- 1日 プライバシーマーク現地審査（大阪）、日印産連広報委員会（日印産連 + Web 会議）→事務局
- 3日 プライバシーマーク現地審査（東京）
- 4日 年賀状デザインコンテスト委員会（Web 会議）
- 5日 生産性向上委員会（Web 会議）、SPACE-21 幹事会（Web 会議）
- 8日 プライバシーマーク現地審査（愛媛）
- 9日 ジャグラコンテスト専門委員会議（Web 会議）
- 10日 日印産連ステアリングコミッティ・専務理事連絡会議（日印産連 + Web 会議）→中村会長・沖専務
- 12日 JAGAT 理事会（JAGAT + Web 会議）→吉岡理事
- 16日 ジャグラ BB 委員会（Web 会議）、日本プリンティングアカデミー評議員会（日本プリンティングアカデミー）→欠席
- 17日 総務委員会（Web 会議）、印刷図書館理事会（日本印刷会館 + Web 会議）→中村会長、日印産連理事会（日印産連 + Web 会議）→中村会長・清水副会長
- 19日 拡大理事会（本部）
- 24日 プライバシーマーク審査会（本部）
- 30日 印刷物創注委員会（本部）

4月のスケジュール（2月末時点）

- 15日 定期監査（本部）
- 16日 拡大理事会（本部）、拡大理事会懇親会（未定）
- 17日 SPACE-21 総会 & 全国キャラバン in 名古屋（リアル開催 + Web 会議）
- 19日 経営技術研究委員会（Web 会議）

事・務・局・便・り

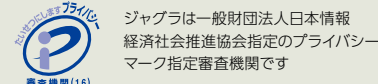
2月13日深夜、東北地方を中心に震度6強の地震が発生し、東京でも大きな揺れを感じました。宮城・福島の子グラー会員企業で、設備等に被害がありましたが、人的被害はなかったようです。震源地の会員さんで、東日本大震災の経験を活かし、事前に対策を取っていた為、被害を免れたというお話を聞きました。BCP も含めた災害対応が求められていますが、実際に経験した仲間の体験談は何より参考になります。今後はそういった話を機関誌やセミナーなどを通じてお伝えできたらと考えています。（K.N）

【お詫びと訂正】 先月号目次ページ「なから通信」において、以下の誤植がありました。訂正してお詫びいたします。
誤）課員→正）会員

月刊
グラフィックサービス
No.832
2021
03

月刊『グラフィックサービス』832号

■発行日 令和3年3月10日（毎月1回）
■発行人 中村 耀
■編集人 清水 隆司
■発行所 一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
T E L 03-3667-2271
F A X 03-3661-9006
W E B https://www.jagra.or.jp/



■編集部 メール edit@jagra.or.jp

◎企画：ジャグラ広報委員会

委員長 清水 隆司 / 副会長
委員 中村 耀 / 会長
田中 秀樹 / 東京・城東
米田 和秀 / 関東複写
斎藤 成 / 東グラ専務理事
沖 敬三 / 専務理事
外部委員 藤尾 泰一 / (有)インフォ・ディー
事務局 阿部奈津子
守田 輝夫

◎原稿・編集・校正：ジャグラ事務局ほか

沖 敬三 並木 清乃 阿部奈津子
今田 豪 守田 輝夫 酒井 玲子
長島 安雄（以上、ジャグラ事務局）
斎藤 成（東京グラフィックス/広報委員）
藤尾 泰一（有)インフォ・ディー/広報委員）
日経印刷(株)（校正のみ）

◎渉外 並木 清乃 守田 輝夫

◎広告 酒井 玲子

◎Web 阿部奈津子

◎動画 今田 豪

◎組版/デザイン (有)インフォ・ディー

組版 = Adobe CS6/CC ほか
フォント = モリサワ0TF/モリサワBIZほか



※本誌の一部にユニバーサルデザインフォントを使用しています

◎製版/印刷 日経印刷(株)（東京・千代田支部）

R I P = 大日本スクリーン Trueflow
C T P = 富士フイルム XP-1310R
刷 版 = 大日本スクリーン PT-R8800ZX
印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P
インキ = DIC
用 紙 = 三菱ニューVマットFSC-MX 菊判62.5kg
※本誌はFSC森林認証紙（管理された供給源からの原料で作られた紙）とLED-UVインキ（リサイクル対応型）を用い、環境に配慮した印刷工場で生産されています。https://www.nik-pnt.co.jp/

Copyright 2021 JaGra／禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です。
原則、TMや®マークは省略しています。
※乱丁/落丁本はお取り替えいたします。

ジャグラBB
JaGra Broadband Contents Service
HOTNEWS
2021年3月号

ジャグラが運営する、印刷業関連のセミナー、情報動画配信サイトです。2005年の開局以来、印刷業の情報収集、人材教育ツールとして多数の印刷会社に活用されています。

今週の
支部長

ジャグラニュースの人気コーナー。毎回、全国の支部長さんにインタビューを行っています。

好評配信中！

カテゴリー ニュース ニュース・業界情報 ジャグラニュース



石川県支部
黒沢 康憲 支部長



福島県支部
伊東 邦彦 支部長



鹿児島県支部
松永 英明 支部長



東京・港支部
深海 正洋 支部長



山梨県支部
樋貝 浩久 支部長



東京・中央支部
中田 逸郎 支部長



東京・新宿支部
大塚 宜輝 支部長



キャスター
高階 亜理沙

現在取材継続中！今後にご期待ください！

今月のおすすめ番組

▶最新情報はWEBをチェック



JaGra神奈川令和3年新年
初顔合わせ会オンライン
（ダイジェスト版）【投稿動画】



近畿地協主催 会社報告会
（株）リーブル坂本社長講演
提供：近畿地方協議会【投稿動画】



【緊急企画】
我々はどうの様に生き残るか！
緊急座談会【第2部】



カテゴリー BBネットワーク 支部・地協発信

カテゴリー BBネットワーク 支部・地協発信

カテゴリー ニュース ジャグラ情報



リョービMHI
グラフィックテクノロジー株式会社

菊全印刷に新風を



RMGT 970 誕生

いまの環境社会に適合するために、もっとも大切なことはなんでしょうか？

地球や環境にやさしく、それでいて生産性が高い、新時代の菊全印刷機を開発しました。

新開発の RMGT 970 は、最大紙寸法 650×965 mm（最大印刷寸法 640×930 mm※1）。

菊全判用紙やK判用紙に、ジャストサイズです。

さらに、メイクレディから試刷り、本刷りまでをノンストップで行える自動印刷機能※2により、

印刷準備時間の短縮や稼働率の向上を実現します。

菊全判印刷機 RMGT 970 が菊全印刷に新しい風を吹き込みます。

※1 片面印刷時の仕様です。両面印刷時は 630×930mm

※2 スマートアシストプリンティングのオプション名称で開発中

Assist Your Potential

— 技術力と創造力で、あなたの可能性を支援する —

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社

〒726-0002 広島県府中市鷺飼町 800-2 TEL 0847-40-1600

<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>